

平成28年度公益財団法人ふくしま海洋科学館事業報告書

【事業総括】

平成28年度は、平成30年に開催が決定した「第10回世界水族館会議」の実施に向けて、地域を含めた実行委員会の設立、館内組織の整備など具体的な準備を始めました。9月にカナダのバンクーバーにおいて開催された第9回世界水族館会議で、次回開催地としての情報発信を行いました。

入館者数は、震災前の平成22年度比40.5%減、前年比8.2%減、512,894人と目標の60万人には達しませんでした。

当館では、基本理念と展示のシナリオを堅持しつつ、自然とのふれあい、味覚を含めた五感に訴える体験プログラムなどを実践して、自然に親しむ次世代の子どもたちの「子育て支援活動」に取り組みました。

「オホーツクの海」エリアの展示空間を拡大して、冷水系の生物多様性を展示する「親潮アイスボックス」としてリニューアルしました。

また、展示の充実を図るために、水生生物保全センター機能を十分に生かし、採集及び飼育が困難とされる魚類等の繁殖研究や、ラブカ雌の卵及び卵黄を有する胎児を始めとする深海性魚類の飼育実験を行いました。サンマについては、安定した常設展示を維持する努力をしております。

海外における域内保全活動と位置づけているシーラカンス調査については、インドネシアシーラカンスの標本を入手し、国内外の研究者とともにアクアマリン施設内で解剖を行うなど、調査研究を進めました。

アクアマリンいなわしろカワセミ水族館では、福島県内の希少淡水魚の保全活動及び参加体験型的水族館として教育普及活動事業を展開しました。

- 1 駿河湾においてROVを使用した深海性生物の収集を実施し、コトクラゲ、トリノアシ等の採集に成功しました。また、オホーツク海コーナーを親潮アイスボックスに改修して深海性のオオメンダコや日本初記録となる生物を展示することができました。この他、水生生物保全センター串本分館を活用して飼育困難生物であるヤエギスの収集展示を行いました。
- 2 水生生物保全センターでは、採集及び飼育が困難とされるサンマの繁殖研究や東海大学との共同研究としてラブカ雌のお腹から出てきた卵及び卵黄を有する胎児をはじめとする深海性魚類の飼育実験を行いました。そして、ソリハシコモンエビの繁殖賞を受賞しました。
- 3 県内希少淡水生物であるシナイモツゴやゲンゴロウ類などの繁殖を行いました。また、域内保全の基礎資料としての県内淡水生物の生息地調査を行いました。これを基にレッドデータブックふくしまの見直し作業にも協力しました。
- 4 クウェート・ふくしま友好記念日本庭園周辺においてナツメヤシの屋外育成を継続し、冬期における耐寒状況を観察しました。その結果、ダメージは大きいものの条件が整えば生存できることが示唆されました。

- 5 昆虫、野鳥等が生息できる環境を整備する「須賀（防潮林）プロジェクト」では、防潮堤、あんば様の丘、お祭り広場、縄文の里に種子から育てた地元産樹木の種苗を約1,400本移植しました。
- 6 ゴマフアザラシ雄個体出産「ひかり」と命名（5月28日）。
- 7 シーラカンス学術研究
 - ・インドネシアよりシーラカンス標本1体を日本へ搬送しました。
 - ・インドネシアと日本のシーラカンス研究者により解剖を実施しました（11月4日）。
 - ・シーラカンス共同研究に関するワークショップ・シンポジウムを開催しました（11月3日）。
- 8 福島県、いわき市、猪苗代町、いわき市内関係機関、水族館関係機関と共に第10回世界水族館会議実行委員会を組織し、2018年世界水族館会議（IAC）開催のための準備を本格的に開始しました。

9月には、バンクーバーで開催された第9回世界水族館会議において福島大会の案内を行い、参加を呼びかけました。
- 9 海洋生物の放射能汚染調査に取り組み、その結果について館内展示や研究会等において情報提供を行いました。また、平成24年度より大学研究機関と共同で行っている県内河川の放射性物質測定についても継続して行い、結果を発表しました。
- 10 水産物の風評被害払拭を目的とした「調（た）ベラボ〜ふくしまの魚を食べてみよう〜」を月1回開催し、当館周辺及び福島第一原子力発電所の沖約2kmで採集した魚の放射線量を測定解説すると共に、試験操業漁獲物の試食会を催しました。これらの活動は、復興庁など公的機関からも注目され、復興イベントなどで広く紹介されました。
- 11 誘客と来館者サービス向上のため、様々なイベント、企画を実施しました。夏季には、日本財団の「海と日本プロジェクト」の助成金を活用し、多様なイベントを開催しました。
- 12 アクアマリンえっぐで人気の高い釣り体験を雨天時でも開催できるように、釣り場に開閉式の屋根を設置しました。天候に影響されないため、一般の来館者に加え、学校団体の校外学習でも釣り体験を利用しやすくなりました。
- 13 猪苗代町緑の村管理センター、釣堀・魚鑑賞池、淡水魚館の3施設の総称を「アクアマリンいなわしろカワセミ水族館」として再開館しました（2014年4月）。福島県内及び猪苗代湖の希少淡水生物の保全をテーマに統括的な施設運営を図り、参加体験型展示を通じて環境保全及び教育普及活動に関する事業を展開しております。
 - ・12月より展示例少ないカワネズミ展示
 - ・年度内の入館者数66,864人（前年度74,625人）

【事業内容】

I 公益目的事業

1 飼育展示事業

(1) 水槽展示及び生物の飼育状況

平成28年度末時点での展示は以下のとおりである。

① 水槽数		
本館		116槽
BIOBIOカッパの里		1槽
蛇の目ビーチ		1槽
わくわく里山縄文の里		2槽
アクアマリンえっぐ		28槽
合計		148槽
② 生物の飼育状況		
哺乳類	7種	21点
鳥類	7種	74点
爬虫類	7種	11点
両生類	13種	421点
魚類	461種	75476点
昆虫	14種	167点
無脊椎	275種	21505点
植物	500種	約20000点
金魚	68品種	936点
合計		1284種
	68品種	117675点
		936点

(2) 生物収集事業

展示生物(水生生物、陸上小動物及び植物)採集、購入・輸送

- ① 淡水生物採集
オイカワ、イトヨ他県内生物採集・熱帯生物購入
- ② 沿岸生物採集
福島県水産試験場調査船乗船採集 ホウボウ、サブロウ他
福島県松川浦採集・小名浜サンマリーナ アマモ、ギンポ類他
- ③ 深海生物採集
コトクラゲ他(駿河湾・ROV使用)
- ④ 北方系生物採集：北海道オホーツク海沿岸
ハダカカメガイ、ナメダンゴ、オオメンダコ、オオグチボヤ等深海性生物
- ⑤ 南方系生物採集
カツオ、キハダ、マイワシ
- ⑥ サンゴ礁、マングローブ生物収集
熱帯魚やコモチサヨリ等
- ⑦ 植物：県内採集でシュンラン等・ラン(購入)
- ⑧ ゴマファザラシ繁殖(雄1頭)
- ⑨ ユーラシアカワウソ雌1頭搬入(オーストリア)
- ⑩ ユーラシアカワウソ繁殖(雌2頭)
- ⑪ フェネック雄1頭搬入(購入)

- ⑫ キタオットセイ雄1頭・雌1頭搬入（静岡県三津シーパラダイス）
- (3) 南方系生物蓄養事業
カツオ、キハダを蓄養・輸送・搬入（奄美大島）
- (4) 水生生物保全センター運営事業
 - ① ヤエギス等飼育困難生物の研究（串本分館）
 - ② シナイモツゴ、ゲンゴロウ等の繁殖研究
 - ③ 駿河湾ROV調査
 - ④ サンマやラブカ他の飼育調査研究
- (5) 飼育生物管理事業
本館、えっぐ、水生生物保全センター、屋外施設の動植物展示及・飼育管理

2 移動水族館事業

移動水族館専用車（通称：アクアラバン）において、各地域・施設のイベント等に出展した。普段当館に足を運ぶことができない人に海の生物に親しむ機会を提供し、自然事象への興味、関心を高めてもらうことと併せて、開催地の地域振興に貢献した。

また、主催者要請に応じ、有料移動水族館専用車を運行した。

3 研究交流事業

(1) 学会・研究会等

- ① 平成28年9月8日
Zootaxa（学術誌）掲載
「北海道東部で採集された2種の深海性十脚目甲殻類についてダイオウキジンエビ（新称）とベルリシンカイコシオリエビ（新称）」
- ② 平成28年9月25日から30日
○IAC 2016 カナダバンクーバー「ハッピーオーシャン 水産資源の持続可能な活用の取り組み」（口頭発表）
○「小さいことはいいことだ アクアマリンとカワセミ水族館における生物様性の展示の試み」（ポスター発表）
- ③ 平成28年10月14日
Present Earth Surface Processes and Historical Environmental Changes in East Asia（名護市産業支援センター10月14-17日）
金沢大学共同調査結果で
Sedimentation processes of radioactive cesium in storage reservoirs after Fukushima accident（発表）
- ④ 平成28年10月23日
Zootaxa（学術誌）
「南西オホーツク海の根室海峡において再発見と再記載されたツメナガイバラエビ」（掲載）
- ⑤ 平成28年11月23日
日本動物園水族館教育研究会誌
「アクアマリンふくしま HAPPY Oceans の取り組みについて」（掲載）
- ⑥ 平成29年1月24日
第61回水族館技術者研究会
「ラブカ胎児の人工保育と成長」（発表）
- ⑦ 平成29年1月
只見町ブナセンター紀要「只見町伊南川における魚類相調査」（掲載）

- ⑧ 平成29年2月21日
復興庁依頼（参議院議員会館 被災地応援フェア）
アクアマリンふくしまの毎月開催
「調（た）べラボ～ふくしまの魚を食べてみよう～」（口頭発表）

4 海洋文化推進事業

- ① インドネシアよりインドネシアシーラカンス標本1個体輸送（8月25日）
② インドネシアシーラカンス標本研究に関するワークショップ・講演会（11月3日、4日）
「インドネシアにおける魚類調査研究～メダカからインドネシアシーラカンスまで～」を開催。（日尼研究者のシーラカンス解剖を実施）

5 企画営業事業

(1) 企画管理事業

接客や案内誘導等の業務委託、年間パスポート販売等（来館者サービス向上）

- ① 券売・受付業務委託
券売・改札業務（専門業者委託で接客質向上）
② 年間パスポート販売
利用者利便性の配慮（リピーター増を目的「年間パスポート」販売促進
「福島県子育て応援パスポート事業」（協賛）「年間パスポート」（割引販売）
7, 174件（平成27年度 7, 866件）

(2) 広報宣伝事業

県内外に一層アピール。イベント開催告知、誘客促進。各種媒体で積極的な広報宣伝活動を展開。

① 各種媒体等を活用した広報

ア テレビCM放映

- ・夏休み向け：宮城1局、新潟2局、山形1局
- ・夏休み向け：県内2局、宮城2局、新潟2局、山形1局

イ ラジオCM

- ・夏休み向け：番組買取（ペイドパブ形式）新潟1局。

ウ 新聞

地元3紙及び隣県地方紙に、観光シーズン誘客目的の広告掲載。

エ 雑誌等

夏季向け広域広報

- 東北新幹線車内情報誌「トランヴェール」、
- 幼稚園児直接配布情報誌「あんふあん」（リビング新聞社）
- 夏季中心に県外フリーペーパー情報誌掲載

オ 看板

東京駅八重洲口京葉通路、品川駅中央改札口、福島空港に広報看板

カ その他

県内の新聞、情報誌にパブリシティ活用の広報活動とWeb旅行情報サイト掲載

- ② ポスター・パンフレット等の作成・活用
 - ア 館内案内リーフレット
館内案内リーフレットを来館者に配布。
県内外観光施設、旅行エージェント、公共施設等に配布。
 - イ イベントチラシ・ポスター
季節イベントにチラシ・ポスターを作成
県内外の公共施設等に配布・掲出。
市内新聞折り込みや小学校、幼稚園の全児童・園児への配布。
 - ウ イベントカレンダー
年間を通したイベントカレンダーを制作。
県内外の宿泊施設、旅行エージェント、公共施設等に配布。
- ③ 館内外における季節演出及び催事等の実施
 - ア GWイベント（5月）
GWに合わせ開館時間を午後7時まで延長し、参加型のイベントを開催。
 - イ 潮干狩り（5月、6月）
5月GW明けから6月末までの毎週日曜日に、蛇の目ビーチで潮干狩りを開催
 - ウ ゴマファザラシの赤ちゃん命名式
4月8日に誕生した赤ちゃんの愛称を一般公募（5月28日命名式）
 - エ アクアマリンの夏まつり（7～8月）
漁網迷路や海洋楽教室、ビーチ相撲大会など、海にちなんだイベント開催
 - オ クリスマスイvent（12月）
クリスマス期間の3日間、開館時間を午後8時まで延長。
大水槽前コンサート等のイベントを実施。
 - カ 那須どうぶつ王国ふれあい動物園（12～1月）
小名浜潮目交流館でアクアマリンふくしま主催移動動物園を開催
干支の引き継ぎ式等のイベント開催
 - キ お正月イベント（1月）
お正月プレゼント・生き物かるた大会・フィギュア釣り
 - ク ひなまつりイベント（2～3月）
つるし雛館内展示。
 - ケ フラワーフェスティバル（3～4月）
ランの花と金魚の展示・参加型イベント開催
- ④ アクアラバンを活用した営業・広報宣伝
移動水族館専用車両（通称：アクアラバン）により県内外のイベントに出展し、
営業・広報宣伝を推進した。
・出展か所数 23か所 観覧者数 39,699名
- ⑤ キャラクター「権兵衛」PR
館内で来館者サービス・移動水族館や県外観光PR実施

（3）観光誘致事業

- ① 地元旅館ホテル等の連携の強化
地元温泉旅館組合（いわき湯本温泉旅館協同組合、小名浜旅館ホテル組合）、
近隣6宿泊施設（小名浜オーシャンホテル等）、ホテルハワイアンズ、母畑温泉八幡
屋・かんぼの宿いわきに宿泊者限定入館券販売実施。

宿泊施設観光客受入態勢が震災以前の状況に回復せず11月22日の地震の影響で実績は前年より減少。震災前と比較すると大幅減の状況

・入館実績26,422人

(参考：平成27年度27,424人平成22年度55,991人)

② 団体旅行等の誘客促進対策の実施

営業活動を強化。

県及び市等の補助事業（宿泊費や交通費の補助）を活用。しかし復興支援団体の減少・観光バス及び高速バス事故多発で運行規制の強化とバス料金値上げの影響で送客数は減少。

ア 観光券取扱契約業者からの送客数

12,713人（平成27年度15,921人：平成22年度23,712人）

イ 旅客斡旋手数料支払契約業者からの送客数

4,965人

(平成27年度5,859人：平成22年度11,145人)

③ コンビニ前売券販売実施

県外からの誘客を促進。

ラブカップルチケット（2人1組の割引チケット期間限定(11/26～3/14)

(新規客層へ訴求効果有り)

入館実績7,292人（平成27年度5,906人、平成26年度6,339人）

(4) 地域交流事業

積極的に周辺地域と交流を深め地域振興に貢献した。

① 小名浜まちづくり市民会議へ参画

会員として会議やイベントに積極的に参画

② 小名浜港まつりへの協賛

館内外の花火大会の観覧に配慮してイベントに貢献

③ ばんえつ発見の旅サポートの発足

磐越道沿線の7つの文化施設の参加を募って連絡協議会を発足。

各館共通割引券作成、配布。

④ いわきら・ら・ミュウ、小名浜美食ホテルとの連携

上記2社と情報交換を密にし、相互にイベントへの協賛や協力。

平成30年オープン予定イオンに会議参加依頼。オープン後の連携協議

⑤ 移動水族館専用車（アクアラバン）を活用した地域交流の推進

県内文化施設での移動水族館開催

6 学習交流事業

(1) 解説活動事業

子どもから大人まで多くの人々が、海の生物や環境について楽しみながら学び、考え、交流のできる施設をめざし、一般来館者を対象に次のような解説活動を実施した。

① バックヤードツアー

当館のボランティアが展示水槽のキーパースペース、実験室、調餌室、サービスヤード、濾過槽、ホルマリン室を案内しながら、水族館の仕組みや飼育員の仕事について紹介した。

(参加者数26,750名)

② ハンズオン解説

アクアマリンえっぐのボランティアーズステーションにおいて、小名浜港で採集したプランクトンの観察や化石、標本などを手に取って観察できるハンズオン解説を行った。

③ アクアマリンえっぐワークショップ

アクアマリンえっぐにて有料の工作体験として通年でワークショップを実施した。

1. 海辺のマグネットボード

3月19日(土) ~ 4月28日(木)

コルクで型取った海の生き物のマグネットとボードのセットの工作。

2. 貝殻のキーホルダー

4月29日(金) ~ 5月27日(金)

ヒオウギガイにシーグラスや貝とサンゴ砂で飾るキーホルダー作り

3. 海のぬりえストラップ

5月28日(土) ~ 7月13日(水)

プラ板を使った海の生き物のストラップ作り

4. キラキラマリンドーム

7月14日(木) ~ 9月14日(水)

小瓶に貝殻やマリンドーム、ラメパウダーを入れるスノードーム作り。

5. 貝殻のランタンストラップ

9月15日(木) ~ 10月31日(月)

ヒオウギガイにライトを挟んだジャックオランタンストラップ作り。

6. どんぐりサンタと松ぼっくりツリー

11月1日(火) ~ 12月25日(日)

どんぐりに色を塗ったサンタクローズとマリングラスで飾った松かさのクリスマスツリー作り

7. 和紙凧

12月26日(月) ~ 1月9日(月)

紙と竹ひごを使った凧作り

8. 海の宝石をみがこう!

1月10日(火) ~ 2月28日(火)

ヤコウガイを紙やすりで磨くストラップ(ネックレス)作り

9. ビックなぬりえのキーホルダー

3月1日(水) ~ 4月26日(水)

スタンプを押して色をぬり、貝殻で飾るコルクのキーホルダー作り。

④ ワークショップ開催

環境教育や環境保全に関連する活動を行なっている団体の協力のもと、来館者を対象としたワークショップを開催

1. 渚のオシャレな小物入れを作ろう

協力団体 NPO 日本渚の美術協会

7月23日(土)~24日(日)

ホタテガイの貝殻をビーチグラスやサンゴで飾る小物入れ作り。

2. お魚タッチ水族館

いわき魚塾

7月23日(土)~24日(日)、8月27日(土)~28日(日)

実物の魚を手にとって観察できる生き物解説。

3. 海洋楽教室

協力団体 海洋楽研究所

8月6日（土）～7日（日）

絶滅した生物を再現したロボットを展示し、操作体験も開催。

（2）企画展開催事業

来館者サービス向上と広報、常設展示を拡充したテーマ展示を実施

① 世界の水族館

平成28年4月20日（水）～平成28年10月31日（月）

世界各地の水族館を写真や地図で紹介。

② 金魚銀座

平成28年5月21日（土）～11月30日（水）

日本三大地金魚を展示（エントランスホール特大金魚ねぶた展示）。

週末に金魚クラフト体験、オリジナルグッズ販売。

③ 動物画家・藪内正幸展～日本の野生動物～

平成28年7月15日（金）～平成29年2月28日（火）

動物専門の画家、藪内正幸の作品約80点を展示。平成29年1月8日に藪内正幸美術館館長と児童文学作家齋藤惇夫氏の対談会

④ 小名浜国際環境芸術祭

平成28年9月17日（土）～平成28年11月20日（日）

大漁旗をテーマとしたデザイン展を実施

芸術を通して環境保全のメッセージを発信。芸術による地域交流を図る

毎年実施のシーボーンアート展、我ら海の子展

ハンディキャップを持った方を中心とした絵画展「Smile, smile & smile! みんなで一緒に輝こう～」を開催

⑤ キッズアート展「縄文壁画アートをつくろう！」

平成28年10月1日（土）～平成28年11月20日（日）

アクアマリンえっぐ通路を洞窟にして来館した子ども達に絵を描いてもらった。

⑥ 俳句の季コンテスト

平成28年10月15日（土）～平成28年11月20日（日）

館内で応募された俳句の審査。入賞作を展示。

⑦ 海の男の盆栽展

平成28年10月27日（土）～平成28年11月2日（水）

黒松等の古木の迫力ある作品や秋の草花等による作品を展示

（3）展示事業

魅力ある展示を維持するため、展示品、種名板、情報ソフト等の更新を随時行い、図書や映像ソフト等の充実にも努めた。

- ① 放射線に対する基礎的な情報や館内の環境放射線量、海水中の放射性物質質量などの情報を提供するとともに、当館が行っている調査研究について展示を行った。

- ② オセアニックギャラリーでは「環境水族館からのメッセージ」「漁場から食卓まで」「あぶくま東縁の地質生物」「弁財天ウナギプロジェクト」「よみがえれ木戸川」「採集する。研究する。展示する。」について展示した。
- ③ 2階ホワイエの図書コーナー、えっぐのキッズコーナー、ボランティアーズステーションの図書やぬいぐるみ、観察用機材の管理を行った。
- ④ 縄文時代動物柴犬の展示（アクアマリンえっぐ）
- ⑤ うみう展示（アクアマリンえっぐ）いわき照島生息地天然記念物指定

(4) 学校教育関連事業

- ① ガイダンス

当館に来館した学校団体を対象に施設の展示概要の紹介と館利用上の注意点等を解説するガイダンスを実施した。（12回実施、対象者数766名）
- ② 館内学習

当館に来館した学校団体を対象に研修室などで授業を行った。当館の釣り堀を利用した命の教育、獣医の仕事の紹介、震災からの復興などをテーマとした学習を実施した。

（85回実施、対象者数5,196名）
- ③ 移動水族館の実施

移動水族館専用車（アクアラバン）による生物の観察、標本や化石などを手に取って観察をするハンズオン展示、震災からの復興をテーマにしたレクチャーを行う移動水族館を実施した。

（17校、対象者数3,058名）
- ④ 職場体験・インターンシップ・博物館学芸員実習の実施

中学校、高等学校、大学の生徒・学生を対象に、業務体験をとおして職業観・勤労観の習得や進路指導の一環を目的とした実習を実施した。

ア 中学校・高等学校生徒の職場体験	13回実施	対象生徒数51名
イ 大学生のインターンシップ	3回実施	対象学生数8名
- ⑤ 館内学習支援事業

いわき市内の小学校を対象に当館のバスで児童を送迎し、館内において学習活動を実施した。（16回実施、対象者数353名）
- ⑥ 教職員セミナー、教員研修の実施

8月2日から4日の3日、県内の教職員を集めて館の利用の説明やわくわく里山・縄文の里を紹介する教職員セミナーを開催し、57名が参加した。また、県いわき教育事務所からの依頼による高等学校初任者研修や経験者研修を実施した。

(5) 情報提供事業

- ① 情報コーナー

情報コーナーでは、国内外の友好園館の展示を開始した。
- ② インターネットによる情報提供

ホームページを更新することにより、様々な情報提供を行った。最新生き物情報欄では生物の搬入搬出や繁殖出産の情報を、ニュース欄では季節ごとのイベントや企画展の詳細、参加体験プログラムの募集等の情報を発信した。また、風評被害払拭に関わる環境放射線量や海水中放射性物質質量など放射線量の情報については毎週更新した。

併せて、フェイスブック、ツイッターを活用して、生き物の搬入や新規展示、生き物の様子など展示生物に関する情報のほか、イベントの実施状況など、タイムリーな情報提供をほぼ毎日行った。

③ 機関誌の発行

水族館の活動内容をはじめ、生物や海に関する様々な情報を掲載した機関誌「AMF NEWS」を年4回発行した(発行部数 5,500部/回)。

④ プレスリリース

年間137件の投げ込みを実施した。テレビの取材が50件、新聞の取材は120件あった。

⑤ その他

テレビ、雑誌等の取材協力を積極的に行い、夏季にNHKの全国放送で当館が紹介された。

7 スクール開催事業

海の生物に親しみ、自然の事象について興味、関心を高めることを目的に、各種スクールを開催した。

(1) スクールの開催

事前募集を行った参加者を対象として様々な体験活動を提供するスクールを開催した。

- ・キッズプログラム：6回151名
- ・ナイトプログラム(宿泊プログラム)：6回130名
- ・ハッピーオーシャンプログラム：9回123名

(2) 炭火烧体験、かつお節削り体験

子ども漁業博物館「うおのぞき」の命の体験プログラムとして、ホタテガイやハマグリ、サザエなどの活きた魚介類を炭火で焼いて食べる炭火烧体験とかつお節を削る体験を提供した。

(3) 釣り体験

アクアマリンえっぐの釣り場において魚を釣って調理し、食べるという体験を提供し、子どもたちに命の教育の場を提供した。(参加者数17,767組)釣り場には開閉式の屋根を設置し、雨天時でも釣り体験を開催できるようにした。

(4) 他団体と連携をした被災者支援活動

全国の博物館が被災した児童を支援しようと集まったこども☆ひかりプロジェクトのメンバーと共に、6月25日、26日に仙台卸町産業見本市会館、9月19日にルネッサンス棚倉、10月16日に南相馬市博物館においてこども☆ひかりフェスティバルを開催した。

8 ボランティア等活動事業

アクアマリンふくしまボランティアの会による自主的、積極的なボランティア活動を通して、来館者の学習活動を支援するとともに、多様な交流を促進した。また、ボランティア活動者に対しては、資質向上のための専門研修を継続的に行い、本施設を自らの学習・実践の場として積極的に提供した。

第1期～第18期ボランティア更新者	212名
第19期新規ボランティア登録者	33名

登録者数(平成29年3月31日現在) 245名

9 施設管理事業

(1) 修繕工事

① 土木工事

ア 東日本大震災以来継続する地盤沈下に対応 BIOBIOカップの里園路補修

② 建築工事

ア 南テラス床板交換工事と同時に露店を更新した。

③ 電気設備工事

ア 経年劣化により破損した受変電設備のコンデンサー及びリアクトルの交換

(2) 省エネルギー・光熱費対策

複数の電力会社と交渉し料金体系を比較した上で電力会社の切り替えを行った結果、電気料金が大幅に低減した。また、熱源機の運転調整と季節に応じた設定水温変更、屋外緑地帯の散水の工業用水への一部切り替え等によりエネルギー使用量と光熱費を削減した。

(3) 主要維持管理施設

主要維持管理施設は、次のとおり。

① いわき市小名浜字辰巳町地内

ア ふくしま海洋科学館

・本館等敷地面積	39,531.97m ²
・本館延床面積	12,935.11m ²
・水生生物保全センター延床面積	925.09m ²
・子ども体験館「アクアマリンえっぐ」延床面積	1,266.70m ²
・温室面積	52.54m ²
・わくわく里山・縄文の里関連施設延床面積	1,509.56m ²

イ 駐車場関係

・本館駐車場面積	4,867.13m ²
・施設外駐車場面積	1,280.00m ²
・屋外トイレ面積	106.18m ²

② いわき市小名浜下神白字松下地内

ア 海水取水・送水施設

・取水ポンプ棟延床面積	1棟	84.43m ²
・ろ過送水棟延床面積	1棟	180.04m ²
・取水管(管径 350mm)		91.10m×2条
・揚水管(管径 300/350mm)		146.00m
・送水管(管径 250mm)	2,	875.90m

③ 和歌山県串本町

ア 水生生物保全センター分館

・延床面積	180.00m ²
-------	----------------------

(4) 来館者用駐車場の確保

繁忙期に臨時駐車場を確保し、安全かつスムーズな整理誘導を行った。
駐車場は次のとおりである。

- ① 常時使用駐車場
 - ・オアシス駐車場 281台 (うち身障者用5台、バス15台)
 - ・公共駐車場 472台 (うち身障者用17台)
- ② 臨時駐車場 200台 (小名浜港湾建設事務所から随時借用する)
- * 駐車場合計 953台

10 アクアマリンいなわしろカワセミ水族館管理運営事業

猪苗代町緑の村管理センター、釣堀・養魚鑑賞池、淡水魚館の3施設の総称を「アクアマリンいなわしろカワセミ水族館」として、福島県内及び猪苗代湖の希少淡水生物の保全をテーマに統括的な施設運営を図り、参加体験型展示を通じて環境保全及び教育普及活動に関する事業を展開した。

また、現淡水魚館内に希少淡水生物繁殖保全水槽を設置し、福島県内の希少淡水魚、は虫類、両生類、鳥類、哺乳類等の保全活動と調査研究を行い、情報発信に努めた。

(1) 施設の概要

○猪苗代町大字長田字東中丸地内

アクアマリンいなわしろカワセミ水族館

猪苗代町緑の村管理センター	736.00m ²
猪苗代町緑の村釣堀、養魚鑑賞池	10,000.00m ²
猪苗代町淡水魚館	605.10m ²

(2) 展示事業

- ① 福島県の河川・湖沼と保全の展示
- ② 淡水生物の分布についての水槽展示及びパネル展示
- ③ 猪苗代湖保全パネルと展示水槽
- ④ 希少淡水魚繁殖保全水槽
- ⑤ 県内に生息するゲンゴロウを始めとする水生昆虫の展示水槽
- ⑥ 福島県の両生類の展示水槽
- ⑦ ユーラシアカワウソの展示
- ⑧ カワネズミの展示
- ⑨ 国外・国内外来種の淡水水生生物の展示
- ⑩ 企画展 (カブトムシクワガタ展・森の宝物展・里山の芽吹き展)

(3) 体験プログラム

- ① 釣り体験の実施、館内観察オリエンテーリングの実施
- ② 参加体験型 (小川水槽) 展示と映像を放映
- ③ 塗り絵コーナー及び飛び出す水族館他のクラフトコーナーの設置

(4) 情報発信

各種展示を通じて、猪苗代湖の保全、希少淡水魚の繁殖・保全を来館者に対して情報発信した。

(5) ボランティア活動

- ① 館内解説補助
- ② 釣り堀運営支援
- ③ 来館者の参加体験支援

II 収益事業

1 ミュージアムショップ運営

店舗名称 ウミノス・ゴンベッサ・アクアマリンショップ JOHMON
3店舗にて商品販売。(170,074,550円 対前年度比87%)
(平成27年度売上額194,783,881円)
(平成22年度比60% 売上額282,063,891円)

2 レストランの運営

おいしい水族館「HAPPY OCEANS」をテーマとした資源量豊富な漁業資源の食材をオリジナルシーフードメニューとして開発し提供した。

(1) レストランアクアクロス

平成28年度売上 43,401,148円(前年度比99.2%)

(平成27年度売上額43,772,310円)

震災前(平成22年度売上額37,392,835円 H22対比121%)

直営店以前の委託営業時は年8,000万円以上の売上があり、厳しい状況は継続中。

(2) 露天 The Roten Café Breeze

繁忙期に、テラス軽食販売を実施。

南テラスウッドデッキ修繕工事と同時に店舗及びイス・テーブルを更新。

(3) 寿司処「潮目の海HAPPY OCEANS」

来館者やメディアから注目

3 イブニングイベント事業

(1) アクアマリン竜宮城

潮目の大水槽前を有料開放し、閉館後の満足度向上を図った。

(地域団体懇親会で5件開催実績)

(2) 雑魚を美味しく食べる会(名称・雑魚の会)

雑魚のブランド化及び地域交流の場を趣旨として年12回開催。

(参加者数計395人)

4 アクアマリンいなわしろカワセミ水族館のショップ開設

飼育展示生物をモチーフにオリジナル商品をカワセミ館で開発販売し、収入確保に努めた。